

## 第5回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時：平成27年10月23日（金）10時00分～11時30分

2. 場 所：京成ホテルミラマーレ 6階 ローズルーム

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 議事概要

#### （1）開会

○司会 本日は、委員の皆様には、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

会議の開催に先立ちまして、委員の皆様にお知らせいたします。本会議につきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置要綱第6条により、原則として公開するものとしておりますので、御了承願います。

また、報道の皆様にはお願いがございます。会議のカメラ撮影は会長である森田知事の挨拶までとさせていただきますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、第5回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課の伏居です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、事務局より委員の退任について御報告をさせていただきます。

本会議委員の鈴木大地氏におかれましては、スポーツ庁長官への御就任に伴い、9月末日をもって委員を退任されましたので、御報告申し上げます。

鈴木氏には、本会議委員として県戦略の策定はもとより、世界陸上北京大会の事前キャンプ誘致等において多大なる御尽力をいただきました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

#### （2）あいさつ

○森田会長 委員の諸先生方、おはようございます。今日は大変御多忙の中、御出席を賜りまして、心から厚く御礼申し上げます。

第5回推進会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、御多忙の中、御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

東京オリンピック・パラリンピックまで、あと5年を切りました。本県では、8月に世界陸上北京大会に向けたアメリカチーム並びにオランダ、ベルギーチームの事前キャンプを受け入れられました。各国からは、競技施設や宿泊施設はもとより、県民のおもてなしの心を高く評価いただいたところでございます。この成果を事前キャンプ誘致を進める自治体等と協議しながら、着実に取組を進めてまいります。

本日は、前回の推進会議で御意見をいただいた戦略の改定案等について御協議をいただきます。新たな戦略の推進に当たっては、引き続き委員の皆様とともに県の総力を集めたチーム千葉で取り組み、オリンピック・パラリンピックの開催効果を県内全域に波及させて、持続的な発展につなげ、次世代を担う子供たちに光輝く千葉を引き継いでいきたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、2020年、さらにその先を見据えて、専門的、総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### (3) 議事

○司会 これより議事に入りますが、本日は石井議長が所用により御欠席されております。これからの進行につきましては、新倉副議長をお願いいたします。

また、知事は、この後所用がございますので、ここで退席をさせていただきます。

○森田会長 失礼します。

○新倉副議長 新倉でございます。本日は石井議長の代理にて進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、これから議事を進めたいと思っております。

まず、議題の(1)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略(案)について協議したいと思っております。

事務局から説明をお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 県政策企画課東京オリンピック・パラリンピック担当の内田と申します。私から御説明をさせていただきます。

それでは、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略(案)につきまして、資料1-1をご覧くださいと思います。

今回の戦略改定は、本県がオリンピック3競技の開催地となったことや、本年3月の戦略策定以降の官民のさまざまな動向も踏まえまして、新たに戦略0を追加するとともに、既存の9つの戦略について改定を行うものでございます。本日お示しいたします戦略案は、7月に開催

いたしました第4回推進会議で委員の皆様から御意見を伺った後に、各専門部会におきまして検討を重ねるとともに、市町村の皆様からも意見を聴取いたしまして取りまとめたものでございます。

それでは、戦略案の内容につきまして御説明いたします。

1 ページ目、「はじめに」をご覧くださいと思います。

ここでは、戦略の改定までの経緯や、本県でオリンピックが開催される意義、戦略の概要について記載しております。

1 ページ目の後半になりますが、成長から成熟へ日本社会が変化していく中、本県で開催される今回のオリンピックを世界に誇れる“CHIBA”の姿をお披露目する場と位置づけ、誰もがスポーツに親しめ、子供たちが夢や希望を持てる豊かな社会の姿を世界に向けて発信していくことや、大会の開催効果を県内全域に波及させて持続的な発展につなげていくことが重要であることを記載させていただきました。

続きまして、2 ページ目をご覧くださいと思います。

本戦略は、大会の成功に向けた取組にとどまらず、本県のさらなる発展に向けて2020年以降を見据えた取組を幅広く示し、今後の進捗状況に応じて新たな取組を盛り込みながら拡充を図っていくこととしております。そして、本戦略に基づき、企業・団体・大学・行政などがそれぞれ主体的かつ連携しながら、本県の総力を集めた「チーム千葉」で取組を進めていくことを記載しております。

続きまして、今回新たに追加する戦略0について御説明をいたします。

4 ページをご覧ください。

県内でのオリンピック競技開催は、本県の国際的な魅力や知名度を高め、幕張メッセの競争力強化や、将来を担う人づくりなどの絶好のチャンスとなるもので、大会の成功を通して地域の活性化やスポーツ・文化の振興に確実に結びつけていくことが重要となります。戦略0では、こうした認識のもと、オリンピック・パラリンピックの競技会場にふさわしい環境を整備するとともに、産学官民が一体となって、オリンピック・パラリンピックムーブメントを確実に推進すること、さらに、大会の開催効果を県内全域へ波及させることを目標として掲げました。

また、主な取組では、4 ページにございます幕張メッセの施設改修のほか、6 ページの中ほどになりますが、ボランティア参加の促進、さらに7 ページ、こちらも中ほどになりますが、文化プログラムや、現在名称の変更が予定されておりますホストシティ・タウンといったオリンピック関連プログラムの推進を図っていくことを記載しております。

続きまして、既存の旧戦略の改定内容につきまして、主なものを御説明いたします。

12ページをご覧くださいと思います。

こちらが戦略の2、競技力の向上・スポーツの普及になります。この戦略2では、オリンピック・パラリンピックに千葉県選手を輩出することや、パラリンピック競技や障害者スポーツの普及、さらにスポーツツーリズムによる地域の活性化を目標に掲げております。

改定内容につきましては、16ページをご覧ください。

今回改定いたします部分はアンダーラインで示しております、16ページの2つになります。本県で開催される競技の普及・振興に関連して、トップアスリートによるスポーツ教室を通じて競技に対する理解や親しみを深めていくことや、指導者の派遣や大学・企業との連携により競技者の裾野の拡大や競技力の向上を図っていくことを記載いたしました。

続きまして、17ページをご覧ください。

戦略の3、成田空港の利便性の向上、交通ネットワーク・アクセスの強化では、成田空港の機能強化や、選手・観客がストレスを感じることなく県内外へ移動できることを目標として掲げております。

主な改定内容でございますが、19ページをご覧ください。

アンダーラインが引かれた上から1つ目と2つ目の四角になりますが、大会期間中の交通案内の強化を図るため、空港や主要な駅、観光地におきまして交通案内や観光案内を行う都市ボランティアを配置することや、乗務員等の外国語対応力やおもてなし力の向上に取り組むことを記載いたしました。

続いて、21ページをご覧ください。

こちらが戦略4、バリアフリー化の促進になります。

この戦略では、ハード面、ソフト面のバリアフリー化、さらに心のバリアフリーに取り組み、誰もが観戦や観光を楽しめる地域づくりを進めることを目標として掲げております。

主な改定内容でございますが、23ページをご覧くださいと思います。

下から2つ目の四角になります。実際に車椅子で海浜幕張駅から幕張メッセまで訪れました専門部会委員からの御提言を踏まえまして、競技会場周辺地域のバリアフリー関連情報の充実を図っていくことを記載いたしました。

続いて、29ページをご覧くださいと思います。

こちらが戦略の6、外国人受入体制になります。この戦略では、外国人からも高い評価を受けるワンランク上の観光地づくりに取り組み、オリンピック・パラリンピック後も多くの外国

人が訪れ、満足する「国際観光地CHIBA」を目指すことを目標として掲げております。

主な改定内容でございますが、32ページをご覧ください。

上から2つ目の四角になります。外国人向け旅行商品の開発といたしまして、幕張メッセで開催される競技の観戦客や成田空港利用者などをターゲットとした県内周遊の仕組みづくりに取り組むことを記載いたしました。これに関連いたしまして、専門部会で千葉県のオリジナル観光コースの策定を検討しておりますので、詳細につきましては議題の(2)の中で御報告をさせていただきたいと思っております。

続きまして、33ページをご覧ください。

こちらが戦略7、危機管理・安全対策になります。この戦略では、安全・安心が本県を訪れる人々にとって大きなおもてなしの一つであるとの認識を持ちまして、テロ対策や治安対策を推進するとともに、安全・安心な本県の姿を国内外にアピールすることを目標として掲げております。

主な改定内容でございますが、36ページをご覧ください。

こちらのページの最後の四角になります。医療通訳の養成や、多言語に対応した問診表の作成など、訪日外国人への医療対応の強化方策につきまして検討していくことを記載したところでございます。

続いて、37ページになります。

戦略8、機運の醸成・国際交流の促進では、オリンピック・パラリンピックの成功に向けて県民一丸となって協力し、機運を盛り上げていくことや、国際交流・国際理解の促進を通じて国際感覚を磨き、誰もがお互いを理解し、支え合う共生社会を実現することを目標として掲げております。

主な改定内容になりますが、38ページをご覧ください。

ページの中ほどに下線部分がございますが、オリンピック・パラリンピック教育の推進に当たりまして、JOC、日本オリンピック委員会や日本財団が設立したパラリンピックサポートセンターと連携した取組を進めていくことを記載いたしました。その他の戦略につきましても、委員の皆様からの御提言や専門部会に参画する団体の新たな取組等を盛り込みまして戦略の拡充を図っております。

資料1-1の説明は以上でございます。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

資料1-2は、前回の推進会議で委員の皆様からいただいた御意見について戦略案に反映さ

せるとともに、今後、専門部会において具体的な取組を検討してまいります。その主な御意見と対応案について御説明させていただきます。

まず、1番となります。訪日観光客の受入体制底上げのための基準づくりにつきまして御意見をいただきました。こちらにつきましては、現在、経済産業省でサービス業のおもてなしに関する認証制度の施行に向けた検討が進められていると聞いております。こうした動きを注視しながら、県の対応につきましても検討していきたいと考えております。

続きまして、3番の御意見でございます。選手村や各競技会場に千葉県の特徴を発信するインフォメーションを設置できないかの御意見でございます。こちらにつきましては、今後、組織委員会の意向も確認しつつ、設置の可能性を検討してまいります。

続いて7と8の御意見、外国人受入に関しては、言葉によるおもてなしや情報提供が重要との御意見でございます。県では、今年度から通訳ボランティアや外国人観光ボランティアガイドの養成を開始したほか、先ほど御説明いたしました都市ボランティアの養成確保につきましても、今後検討していくこととしたところでございます。

続きまして、9番目の御意見、ボランティア養成に関してさまざまな養成機関があり、連携、情報共有が必要との御意見でございます。こちらにつきましては、県では、この9月補正予算でボランティアの県内統一の募集・育成・管理運営のあり方を検討するための調査を行うことといたしました。調査の詳細につきましては、議題の(3)の中で御説明をさせていただきたいと思っております。

戦略案に対する御説明は以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

それでは、御意見、御質問等がありましたら挙手をお願いいたします。何かございますでしょうか。

県内でのオリンピック競技の開催が決まったことで、戦略案もより具体的な形になってきたかとは思いますが、細かいところも含めて、何か御意見がおありでしょうか。

○後藤委員 私、後藤と申しまして、スポーツ関係のNPOの人間でございますが、特に障害のある方のスポーツについて、今まで教鞭をとってきたりいろいろしているんですが、ですからスポーツについての話をさせていただきます。

ここに書かれていることは一々もったもな事なんですが、例えば2ページ目に「企業・団体・大学・行政などがそれぞれ主体的かつ連携しながら」というふうな文言がございますが、そのリードをどなたがどういうふうに行っているのかというのが見えてこない、ここに書

かれていても、実際にどういうふう動くのかというのが、賽を投げられたほうとしてはよくわからない部分がございます。ですから、その辺をどこがまず責任を持って、どういう形でこれらの目標が達成できるようにしていくのかということ、一つのストーリーをきちんと書いていただければうれしいという気がします。

それから、もう一つは、オリンピック・パラリンピックを機に千葉県がどういう歴史を残せるのかということ考えたときに、オリンピック・パラリンピック競技、あるいは種目が盛んになるのではなくて、一番大事なというか、その背後に、そのことによって、千葉県の方、県民の今抱えている、あるいは日本の国民が抱えているさまざまな健康に関する問題がございます。その問題をどうやって一緒になって解決できるんだらうかというところまで視点を据えていただくと、例えば総合型地域スポーツクラブ設立の推進と15ページにございますが、これは文科省が推進している事業ですが、こういうものをいかにうまく文科省と力を合わせてやっていくかというような描き方をしていただければ、具体的なものになっていくと思うんです。

現実的な問題を申し上げますと、障害のある方はスポーツにアクセスできるという機会は非常に少ないです。スポーツエリートの方たちはそれなりにありますが、一般の障害のある方たちがスポーツにアクセスするということはできにくい環境の中であって、この総合型地域スポーツクラブを使って、いかにそういう環境を変えていけるのかというところまでの計画案をつくっていただけると、皆さん納得できるのかなという気がします。

○新倉副議長 後藤委員、ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

それでは、事務局のほうから今の御意見に関してお願いします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 御意見ありがとうございます。

障害者スポーツ、競技力向上につきましては、今、県でも取り組んでございまして、委員がおっしゃられました、まさに障害者がスポーツになじむ、取り組める環境づくりというのも、これから非常に重要な課題であることは認識しております。総合型地域スポーツクラブの中で障害者スポーツイベントを実施しているクラブもあるということは聞いておりますが、それがまだまだ十分ではないということも十分認識しております。今後、この課題につきまして、パラリンピックに向けて県として重要な課題ということで、取組について十分に検討して、こちらで御報告できるようにしたいと考えております。

以上でございます。

○新倉副議長 ほかにございますでしょうか。

今の2点の御提案に関しましては、また事務局等も含めて検討してまいりたいと思います。とても重要なポイントでして、この点についても念頭に、具体的なところを考えていかななくてはならないかと思っております。レガシーと言葉では言っておりますけれども、具体的にどのような問題があり、それにどのように取り組み、どうやって残していけるのかはとても大切な課題だと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。

ほかにごございますでしょうか。

**○飯沼委員** ちょっとよろしいでしょうか。今、非常にいい意見を述べられたと思っておりますけれども、この間、千葉市のポートアリーナという体育館で車椅子のバスケット大会の、今度パラリンピックがブラジルで行われますけれども、その予選会を兼ねた大会が開かれました。韓国に勝ちまして3位になって、次のリオデジャネイロパラリンピックに出場する権利を得たわけですが、一部の方は非常に熱狂的なファンがいらっやって応援されているんですが、もう少しこういうオリンピックの委員会や何かが、そういうものが千葉で行われているわけですから、部長を中心にもっと集客をしていただいて、そういう競技にもうちょっと興味を示していただくように、積極的に健常者の方に見ていただく。結構激しいぶつかり合いをしているので、見ればなかなかエキサイティングなんですけれども、とりあえずその会場に行っていないことには知ることができないわけでございます。

ぜひこれから、今度ソフトボールも幕張のQVCマリフィールドで行われるようですし、そういうことに対してももう少し集客して、できるだけ千葉県民にそういうことを知っていただくように喚起していただきたいなというふうに、千葉市観光協会長もやっておりますので、そちらも通じましてお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

**○新倉副議長** 飯沼委員、ありがとうございました。

今のお話に関しまして、事務局のほうから。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長** 車椅子バスケットボールにつきまして、後ほど議題の中でもちょっと御説明する部分もございます。この場でPRにつきまして、やはり非常にテレビなどでも取り上げられて皆様の目に触れる部分がふえたということで、新たにファンになった方、あるいは関心を持たれた方もふえているとは思っています。

事前のPRにつきまして、やはり私ども県も一緒になりまして、あるいは市民に非常に協力いただいて、モノレールにラッピングをするなど、あるいはポスターに人気の漫画家のイラストを使うなど、さまざまな手法はとったつもりではございますが、ただ、やはり十分にお客様がいなかったのも事実だとは思っております。今後、こういう大会につきまして、私どもとし

でもPRの方法を十分検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

○後藤委員 その件に関して、15ページのところに「プロチームやトップアスリートによる地域との交流」という文言がございます。お願いなんです、教育委員会、いわゆる教育にかかわるところがもうちょっと、画一的なPRというか、パラリンピックの選手、あるいはオリンピックの選手、トップアスリートたちを学校に招いて何かするというのではなくて、もっと多様なプログラムを考えていただきたい。私の前に御発言くださった方もまさにそういうことだと思うんですけども、単純にアスリートを呼んで、それでおしまいというんじゃなくて、実際に試合を見て子供たちを連れていったら、もっと違ったインパクトが与えられる。選手が1人来て、学校でパフォーマンスを見せても、それほど大した影響力は僕はないと思っている。それよりも、現実に試合を見せて、ぶつかり合っという激しいところとか、オリンピック選手のハイパフォーマンスを見せることによって、「あっ、すごいな」という、そういうことも教育プログラムの中に取り組んでいくような柔軟な姿勢で臨んでいただければという気がしますが。

○新倉副議長 事務局から、あるいは教育委員会から、何かコメントはございますでしょうか。

○内藤委員（代理） 教育委員会でございます。

今、お話がございましたけれども、私どもが取り組んでいることをここで御紹介をさせていただきますと、私ども教育委員会として今大きくやっておりますのが、1つは、先ほど戦略の方針の中でも説明がございましたけれども、競技力の向上ということで、千葉県のいわゆる関係している方がオリンピックに出場してほしいという気持ちも込めて、参加される方の競技力の向上ということで選手の強化を図っております。

それから、もう一つは環境の整備ということで、施設の面とか事前の練習場も含めて、お使いいただく関係の施設整備も含めて環境整備を図っていくこと。

それから、もう一つが、子供たちにオリンピック・パラリンピックを機会に、オリンピック精神、あるいはパラリンピック精神の醸成とか、おもてなし、あるいはいろいろな意味での競技の理解というものも教育課程を通じて進めていくということを行っています。その中で、知事部局の福祉部局とも連携して、子供たちに選手に触れ合っただいて、競技に対する理解を深めたり、それをきっかけにして競技を知ることによって、あるいは実際にやっておられる方を知ることによって競技に興味を持っていただくようなことも含めて、これからいろいろと

取組をしてみたいというふうに考えております。

皆様からいろいろな御意見をいただいておりますので、それも参考にさせていただきながら取り組んでみたいと思ひまして、私ども教育委員会の中にも、オリンピック・パラリンピック関係の特別なグループをつくりまして取組をどんなふうに進めていくのかということも考えていこうとしておりますので、またいろいろ御意見をいただければと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○新倉副議長 ありがとうございます。

○前田委員 委員の前田です。

教育とオリンピックということで、今、競技に対する啓蒙的な部分はおっしゃったんですけども、オリンピックが来るわくわく感というか、今の小中学生がオリンピックが来るころは中高生になるんですね。例えば、千葉県出身のオリンピックの方々はたくさんいらっしゃるはずなんです。過去にオリンピックに出られた方、この方々が過去のオリンピックに行かれてどういうふうに外国で歓迎を受けたか、どういうふうにオリンピックがわくわくするのか、競技だけじゃなくて、スポーツを通じて国際交流がどういうことなのか、こういうことを小中学生に伝えていただけないでしょうか。そうすると、みんなが中高生になったときに、世界からいらっしゃる方を歓迎できるし、また、県内でオリンピックのわくわく感が高まるし、私の分野の観光とかいろいろな分野にでも波及効果が広がっていくので、ぜひ教育面では競技の啓蒙だけじゃなくて、オリンピックが来ることの意義というか、そこを入れていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○新倉副議長 事務局からお答え、よろしいですか。

○内藤委員（代理） 一言だけよろしいですか。

ちょっと言葉足らずで申しわけなかったんですけども、先ほど申し上げました教育の中でいろいろと取り組んでいきたいという中には、今お話もございました、いわゆるオリンピックに対する、まさにそういった、それを機会にして子供たちにいろいろな意味でのわくわく感も含めたものは、やはり教えていきたいというふうに考えております。

私自身、中でも話をしていますが、東京オリンピックのときの高揚感というか、子供のときに感じたことというのは、とても大切だと思います。当時、花いっぱい運動とか、いろいろな意味の取組が行われていましたけれども、そういったものもやはり大切だと思いますので、私どもも子供たちにそういったことを伝える、そういう工夫はしてみたいというふうに考えています。

○新倉副議長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

後藤委員からの御指摘に関してですが、私個人の意見で恐縮ですが、やはりオリンピックとパラリンピックというのは分けて考えるべきものではなくて、施設にしても教育にしても両方一緒に考えていくものと思っております。往々にして、パラリンピックを行うときには、オリンピックを行うときにはと分けて考えがちですが、両方を一緒に考えていくと、たとえば両者が一緒に活動できるためにどのような教育が必要なのかということもおのずと見えてくると感じております。

先ほど飯沼委員のお話もありましたが、I W B Fの車椅子バスケットの中継についても、また北京陸上のキャンプ誘致に関しての具体的な事例についても、この次の専門部会の取組状況で御報告いただけますので、そこでどのような成果があって、またどのような問題があったのかということ、今御意見をいただいたことを踏まえて考えていくことが可能かと思っておりますので、次に進めさせていただければと思います。

それでは、戦略案に関しましては、細かい修正は議長、副議長に御一任いただくということで、この案をもって戦略の改定を決定してよろしいでしょうか。御異議ございますでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。それでは、御了承されたということで、次の議題に入っていきたいと思っております。

議題の(2)です。専門部会の取組状況についてということで、まず1つ目の事前キャンプ及び国際大会の開催結果についてということで、事務局から御説明をいただければと思います。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 政策企画課でございます。

資料2-1をご覧くださいと思います。こちらによりまして、事前キャンプ及び国際大会の開催結果につきまして御説明します。

冒頭、知事からもお話がありました世界陸上北京大会の事前キャンプは、8月に県内各会場で行われたところでございます。アメリカの会場は成田市、佐倉市の両陸上競技場、さらに印西市の順天堂大学のキャンパスで行われました。選手、スタッフ合わせて185名が参加され、延べ1,000名近いボランティアが運営にかかわったところでございます。もう一方、下の②にございますオランダ、ベルギーの両国のキャンプは、千葉県総合スポーツセンターを主会場に行われました。こちらは選手、スタッフ合わせて75名が参加され、延べ700名を超えるボランティアがかかわったところでございます。いずれの事前キャンプにおきましても、地元の小学

生や中高生を対象とした陸上教室を交流イベントとして実施するとともに、選手やスタッフを対象とした日本文化体験イベントを開催いたしました。

2ページに事前キャンプ参加者の感想ということに記載いたしました。知事からもお話がありましたとおり、選手、スタッフからは、施設面はもとより、ボランティアの方々のおもてなしに対して非常に高い評価をいただいております。

続きまして、3ページをご覧くださいと思います。

今回の事前キャンプにおける成果、それから課題を記載してございます。成果といたしましては、事前キャンプの誘致から運営まで、これらの事業を一通り実施したことで、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた貴重な知見を得られたこと、さらに施設や受入体制につきまして、各国陸連から高い評価を得られ信頼につながったことなどが挙げられます。

今後の課題といたしましては、事前キャンプに関係する自治体や各機関・施設との連携体制をさらに強めていくこと、あるいは、ボランティア人材の確保・育成、各国競技連盟との人脈の構築などが挙げられます。

なお、4ページ及び5ページのところに、事前キャンプを千葉で行いました3カ国のメダル獲得者の一覧と事前キャンプの写真がございますので、後ほどご覧いただければと思います。

続きまして、先ほどもお話がございましたIWBFAジアオセアニアチャンピオンシップ、車椅子バスケットについて御報告をいたします。

6ページ目をご覧くださいと思います。

ご覧のとおり、こちらの大会は10月10日から17日まで、先ほどございました千葉ポートアリーナで開催されました。男子は12の国と地域、女子は3カ国が出場し、8日間で延べ1万2,652名の観客が観戦したところでございます。男子は3位となりまして、リオパラリンピックの出場権をこの大会で獲得をいたしました。

また、この大会には通訳ボランティアや運営補助ボランティアなど延べ885名が運営にかかわっております。このほかに、県内の中高合わせて7校、312名の生徒がハーフタイムショーなどで観客の方々にショーを披露いたしました。

大会の運営や会場等にかかわる成果と課題につきまして、現在関係者から聞き取りを行っております。こちらにつきましても、まとめてまた御報告できればと考えております。

続きまして、こちら先ほどお話がございました2018年世界女子ソフトボール選手権について御報告をいたします。

7ページ目をご覧くださいと思います。

女子ソフトボール世界選手権は、県の事業として運営されております千葉県スポーツコンシエルジュが、千葉県ソフトボール協会と県・関係市との間で連携体制を構築し、誘致活動に成功した最初の事例となります。10月1日に日本ソフトボール協会理事会で国内開催候補地が千葉県に決定し、10月16日、正式に千葉県開催が決定したものでございます。

大会は、2018年7月から9月の中で最大10日間、まだちょっと日程は確定しておりませんが、16カ国が参加する予定となっております。今後は、大会の開催に向けまして、日本ソフトボール協会、千葉県ソフトボール協会に協力をしていきますとともに、県内各市町村に大会の事前キャンプへの協力を呼びかけていきたいと考えております。

資料2-1の説明は以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

それでは、御質問、御意見があれば挙手をお願いいたします。

○高柳委員 ちば国際コンベンションビューローの高柳でございます。

今、最後に御報告がございました2018年世界女子ソフトボール選手権大会、この件につきまして、千葉県スポーツコンシエルジュ運営事業を受託している立場から、少しその背景等についても御報告、それとお願いを申し上げたいというふうに思っております。

これは言わずもがなではございますが、先ほど承認されたばかりの千葉県戦略の8ページをご覧くださいますと、戦略1といたしましてキャンプ・国際大会・MICE誘致ということで、その中で4段落目に記載してございますように、「競技施設や宿泊施設、周辺観光施設等の情報を一元化して提供するために、新たに設置したスポーツコンシエルジュを積極的に活用し、多くの国際大会の誘致を目指します」と、こういう位置づけのもとに、今年度から私どもコンベンションビューローに運営事業が委託をされたわけでございます。その最初の大きな成果というようなことで、ただいま報告のございました世界女子ソフトボール選手権大会の本県開催が決まったということでございます。

具体的には、ここにも記載してございますように、千葉市のQVCマリンフィールド、それから成田市のナスパ・スタジアム、習志野市の秋津野球場、市原市のゼットエーボールパーク、この4会場で開催、あと記載のとおりでございますけれども、つい先日といいますか、16日の国際連盟の総会で決定をしたものでございます。

ソフトボールにつきましては、皆さん御承知のように、北京オリンピックで日本チームが金メダルを取りました。その後、オリンピック種目から外され、対象ではなくなりまして、これも先月ですか、2020年の追加の5競技として大会組織委員会から選考され、来年のリオオリン

ピックのＩＯＣで決定される、こういう運びになっている種目でございますが、この世界選手権大会におきましては、記載のとおり16チームが参加をいたしまして、これもオリンピックの正式種目ということになりますのがほぼ確定的だとは思いますが、まさにこのオリンピックの予選会ともなる大会でございます、大変大いに盛り上がるのが予想されているところでございます。日本代表にも、特に5年後のオリンピック、あるいは3年後の世界選手権におきましては、今年インターハイで木更津総合高校が優勝いたしました。このチームの選手の中はかなり有力な、多分2018年、あるいは2020年にはエース級になる人が入っております。地元選手が活躍することが大いに期待されるわけでございますので、大変楽しみにしているところでございます。

また、経緯について若干申し上げますと、国内候補地といたしましては、本県のほかに静岡県、愛知県、この3県がエントリーをしていました。しかもこれはやり直しといえますか、適当な候補地が見つからないということもあって、この7月に再募集をして、それでそのときに私ども千葉県が手挙げをしたと、そんな経緯がございます。いずれにいたしましても、この4つの球場、それからキャンプ地も含めまして県内で開催されるということで、私ども、この千葉県の成田空港を初めとした交通アクセス、あるいは会場、さまざまなクオリティーが評価されて、この開催が決定されたというふうに理解をしているところでございます。

いずれにいたしましても、私どもスポーツコンシェルジュ運営事業を受託している立場といたしましては、この戦略に基づきまして、こういったスポーツイベントそのもの、さらにはオリンピックに向けたキャンプ地の誘致等々、さらには、そういうスポーツ関係の誘致のみならず、スポーツツーリズムを目指しまして、言うならば、ここに参加していた委員の皆様へ直接かわりのある部分が大変多うございますけれども、宿泊であるとか観光であるとか、そういった部分も含めて連携を深めて、さまざまな展開をさせていただければと、かように考えているところでございます。

また、これはこの後の議題で議論されることであるのかもしれませんが、実は通訳ボランティアの育成、これも県からの受託事業ではございますが、つい先日募集いたしましたところ、何と最大で13倍近くというような応募がございました。全てではございませんけれども、3会場、それぞれ30名ずつの養成を狙っているものでございますが、11月から始まりますけれども、これだけ県民の多くの皆様に関心をいただいております。この機会にさまざまな施策の展開によりまして、そういった県民の力もうまく活用していきたいというふうに考えております。

加えまして、これはお願いでございますが、委員の皆様におかれましては、それぞれの団体

等々を取りまとめていらっしゃるところでございますので、ある意味ではそれぞれの主体がまさにこの戦略に基づいて、それぞれが主体的にさまざまな取組をしていただくということによりまして、ぜひ2020、あるいはそれに至る前段階、そういったさまざまな行事等を成功裏に終わらせていただける、かような意味で、私どもスポーツコンシェルジュを受託しておりますコンベンションビューローに対しましても、さまざまな御支援をいただければとお願い申し上げます。

以上でございます。ありがとうございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

まさに新たに設置したスポーツコンシェルジュの第1号というか、一番最初の成果ということですので。大変喜ばしいことだと思います。先ほど前田委員のほうからもお話がありましたように、世界大会等を県で誘致するということは、いろいろな人たちがわくわくする機会になるのだと思います。事務局からの報告もありましたけれども、北京大会のアメリカ、ベルギー、オランダの事前キャンプに関して、加えて御報告いただければと思います。

○加納委員 順天堂大学の加納と申します。よろしくお願いたします。

今回、アメリカチームを事前キャンプ誘致いたしました。千葉県の主導のもとに、成田市、それから佐倉市、印西市と連携をしまして、アメリカチームの事前キャンプが成功裏に終わりました。このような形は、2020年の事前キャンプの運営方法として、他の都道府県や市町村も注目されていくと思われれます。

先ほど4ページにもありましたけれども、アメリカの選手たちからは、選手目線に立ったとても温かいキャンプだったという評価をいただいております。これも大学の持っている専門性を生かして連携できたことによるものと考えております。また、キャンプ期間中も、陸上競技のスタッフだけでなく、USOC、アメリカオリンピック委員会のスタッフも帯同してきておりまして、恐らく2020年に対しての視察も兼ねていたように思われれます。いずれにせよ、今回の成功が、2020年のオリンピックに向けても、千葉県が事前キャンプ地としての優位性を示すことができたのではないかと考えております。

また、国際競技会の際にイベントを計画したところ、地域住民が予想以上に興味を持って、アメリカ選手の応援や陸上競技に関する関心が高まってきたという実感があります。

最後に、このキャンプは学生たちにとって大変大きな財産となったと思います。トレーナーの手伝い、競技会の運営、通訳としてのボランティア、彼ら、彼女らにとって生涯のレガシーになるものと確信しております。

以上、簡単ですけれども御報告させていただきます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

引き続きまして、オランダ、ベルギーの事前キャンプに関して、下河委員、お願いできますか。

○下河委員 日本旅行業協会の下河でございます。

事業者としまして、私、近畿日本ツーリストなんでもございますが、オランダ、ベルギーの事前キャンプの事業の請負をさせていただいております。その報告をさせていただきたいと思いますが、4点ほどです。

まず、事前キャンプということでもありますので、強化合宿ではなくて調整目的の合宿でありましたので、チームのメンバーの環境適応が大きな目的の一つだということを事前キャンプの特徴として捉える必要があるなど。時差ぼけの解消であったり、気候の適応が必要だということ、技術力を上げるというよりなれていくということがあるので、ホテルでの滞在の時間が非常に多くなるということから、ホテルのことを重要視する傾向が思った以上にあります。

それから、スポーツ振興なり国際交流という機運の醸成の中で、市民とトップアスリートの交流なり、それから千葉の認知度を国際的に上げるということも期待ができるわけですが、今回もメダルを取った選手がSNS、フェイスブックを通じて合宿中のことを非常にアップされておりましたが、どうしてもやっぱり「ジャパン」という表現に終始をしておられて、やっぱり御本人たちは、千葉ということより、日本で合宿しているということがどうしても強くなってしまいますから、そこに、せっかくの機会なんですけれども課題があるんじゃないかなというふうに感じました。

一方、ボランティアスタッフの方々は、高校生、大学生の陸上部員の方が中心と、通訳の方も大学生なり高校でも語学を学んでいる方が中心であったんですけれども、選手団の一員という意識が非常に強くて、その中で選手との交流も深まりましたし、自発的に千羽鶴なんかもつくっていただいてチームの活躍を祈念をする場面なんかというのもありました。そんな形をフェイスブック等で上げている選手が非常に多くて、子供たち、ボランティアにかかわってくれた方々にもいい経験になったというふうに思っています。

やはりチームに付き添う通訳のスタッフは、競技の特性等を熟知なり、大会がどういうものであるかという経験がわかるスタッフがそばにすることが請け負う側で必要なのかなというふうにも思いましたので、専門用語なり選手が要望している細かいニュアンスを感じ取ることが、ストレスなく滞在していただけるおもてなしの一つであるというふうにも感じました。

それらのことがあって、コーチ陣から、日本というのは事前に細かく決めてマニュアルどおりに動くというイメージがある中で、バスの時間の調整であったり、食事の内容であったりですとか、臨機応変な対応をしていただいたことがボランティアスタッフのおもてなしとともに非常に助かりましたという話が出ています。その中で、先ほどのホテルのことなんですけれども、ホテルを気にする中でいうと、やはりたばこのにおいが気になるので禁煙のことを重要視したいということと、練習を行うスタジアムと施設の移動時間は25分ぐらいまでに抑えたいというのが、やはりチーム側からございましたので、その辺がパッケージ化をするという中では、ボランティアとホテル、競技場の中でどうパッケージ化していくかということが課題なのかなというふうに思っております。

以上です。

○新倉副議長 ありがとうございます。

この事前キャンプの事例報告に関しまして、何か委員の方々から御質問、御意見ございますでしょうか。

これらの2つの事例をより細かく分析していくと、次のいろいろな新しい課題が見えてくると思いますし、もちろん成功裏に終わって成果があったことも含めてですけれども、問題点もいろいろあるかもしれませんので、さまざまな課題について協議をしていく上ではいい事例かなと思いました。

荒川委員、どうぞ。

○荒川委員 委員の荒川でございます。

ただいまのキャンプの件もそうですけれども、先ほど女子のソフトボールの世界選手権のお話を伺いました。久しぶりに千葉県で大規模な世界選手権が開かれる、大変すばらしいことだと思うのですけれども、1つ懸念というのですか、こういった大会、イベントというのは大変お金がかかります。かつて千葉県は、二十数年前になりますか、メッセが立ち上がったところに卓球、フィギュアスケート、柔道、こういった世界選手権大会を矢継ぎ早に開いたことがありました。大変お金がかかりました。卓球は当初の計画の2倍以上のお金がかかって、補正予算を2回ぐらい組んだことを記憶しています。

この会議は、そういったお金のことに余りかかわらなくてもいいんだと言えばそれまでですけれども、これからいろいろな大規模イベント、あるいはキャンプも含めて、こういったオリンピックを迎えるに当たって施設改修も含めた全体の財政計画というんですか、これはどこかでつくるのか、全くそういうことはこの委員会では気にしなくていいのかということが、ちょ

っと気になりました。あの当時はバブルの時代で、県の財政は非常に豊かでしたから、お金が足りなくなって「よし、じゃ、補正で出してやろう」ということで何とかなっただけなんですけれども、今そういうことが果たして可能なのか。事前キャンプというのは全て千葉県が、あるいは開催地が負担するものなのかどうか。このことがちょっと気になります。

これは千葉県だけではなくて、今、全国でほとんどの県が手を挙げて、オリンピックに向けてキャンプを誘致しようという動きがあるんですけども、そういったことが果たしてその県にとってどれだけ貢献するのかどうか、その辺もちょっと疑問に感じているところなので、事務局でもしできましたら、今申し上げた財政的な問題をどうお考えなのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○新倉副議長 ありがとうございます。とても大切な欠かせない議論ですので、事務局でお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 政策企画課でございます。

今回、大会誘致、あるいはキャンプに関する費用の面につきましては、もちろんキャンプにつきましては実施済みでございますけれども、基本的に日本国内で各県、おおよそここまで地元が負担する、ここから先は競技団体が負担する、その線引きが日本国内におおむねできております。一部の地域では、やはり少し負担が大きくなるというケースもありますけれども、千葉県としては、やはりその基準の中で、千葉県はもともと優位性があるというお話も先ほどいろいろとございましたけれども、そういった中で誘致を進めたいと思っております。

あと、全体の財政計画ということでございます。これは、先ほど誰がリーダーシップをという御質問の部分にお答えできなかったんですが、私ども、今、組織委員会といろいろと議論をしていく中で、このオリンピックに関して地元開催県に何を求められているのかというのがまだ見えておりません。ですので、おおよそ今、项目的な洗い出しをしつつあるんですけども、具体的に何をいつやっていくかという部分がまだ見えておりません。今後、そちらにつきましては、私どもとして工程表をつくります。また、各企業・団体の皆様にも、その工程表を見ながら皆様の工程表をお考えいただきたいというふうには考えております。そういったものができる中で、財政的なもの、全体のボリューム感につきましても、私どもとしては十分考えていかなければいけないと思っております。

まずは、少しお時間をいただいて、組織委員会からの情報をベースにして私どもの工程表、何をいつどうやっていくのかという工程表作成をさせていただければと思います。その中でまた議論もさせていただければと思っております。

○新倉副議長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

I W B Fの車椅子バスケットについてですが、こちらも千葉県と千葉市が共催としてかかわったということですがけれども、どなたか、この共催の取組に関して御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

もう一つ、3つの具体的な事例に関して、先ほどメディアのお話も出てきましたけれども、広報、メディアの方々がこのようなプログラムの開催を放映していく、あるいは宣伝していくのどのようにかかわっていかうとしていらっしゃるのか、また後ほど御意見をいただければと思います。

それでは、ただいまさまざまな貴重な御意見をいただきましたので、それらの御意見に関しましては、また専門部会のほうに持って帰って、さらに検討していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、その次の議題に移らせていただきます。専門部会の取組状況の2番目です。魅力ある観光地づくり・外国人受入体制専門部会における今後の取組についてということで、事務局から御説明を願います。

○田中観光企画課観光企画室長 魅力ある観光地づくり専門部会、外国人受入体制専門部会、こちらの事務局をしております観光企画課の田中と申します。

資料2-2をご覧くださいと思います。

私ども、戦略5の魅力ある観光地づくり専門部会、そして戦略6の外国人受入体制専門部会、こちらは2つの部会に分かれてはおりますが、委員の構成等、類似する項目がございますので、毎回合同で部会のほうは開催させていただきました。その中で戦略5と戦略6をいろいろ協議をいただいたところでございます。

その中でいろいろ意見が出ました。先ほど後藤委員がおっしゃっていたような趣旨のお話がありまして、戦略はつくってはみましたがけれども、どうも総花的で、どこに中心を置いているのか、ポイントを置いているのかよくわからない。今後どのように進めていったらいいのかがよくわからないというような御意見がございまして、そこら辺も委員の中でいろいろ議論を進めてきたところでございます。この2つの専門部会につきましては、実に多彩な顔ぶれの委員がそろっておりまして、県や市は当然なんですけれども、宿泊施設の方、それから観光施設の方、旅行業の方、それから公共交通機関の方、その他、医療関係の方なども入っておりまして、それぞれの分野で皆様、お力をお持ちの委員ということでございます。こういったせつかくの

官民連携組織でございますので、連携して今後、この戦略を具現化していこうということが議論をされたところでございます。

その中で、特に千葉県が今後力を入れなければいけない内容といたしましては、やはり外国人の受入体制の整備が急務ではないかということになりまして、取組名といたしましては、(1)にございますけれども、外国人観光客誘致に向けた受入環境整備のための官民連携の取組をやっていこうではないかということになりました。この取組を進めるに当たって、官も民もいろいろなツールを持ってはおりますけれども、では、我々は一体どこに何を重点的に進めていくべきなのかということをもとに決めようではないかというようなお話になりました。その中で、千葉県ならではのオリジナルコースをつくって、そこへ官民連携の力を全て注入していこうというような取組を進めることとなったところでございます。

取組内容の(2)の※にございます、その取組をまず進めるに当たりまして、まず私ども県のほうで、この9月議会の中で予算をいただきまして、SNSを活用した調査事業というものをまずやりまして、諸外国の方々が日本に対して、あるいは千葉県に対して、オリンピックに対してどのようなお考えをお持ちで、どのような嗜好性をお持ちなのかというあたりをフェイスブック、ブログ、ツイッター、そういったところでどのように皆さんがつぶやいているかを調査をして、おのおのターゲット国の方向けの千葉県内のお勧めのスポットはどこか、そういったあたりをまずは調査しようと考えているところでございます。

また、来年度の話になってしまいますけれども、そういった情報をもとに、また委員の皆様方の知見をもとに、ある程度コースを策定してみて、コース以外でも特定の観光スポットでもいいんですけれども、そういった、重点的に今後我々が官民連携して力を注ぐ場所を決めていきたいと考えております。

そして、その重点的に受入環境の整備を行うという部分につきましては、下のほうにポイントとなってございますけれども、下に受入環境整備で①から④までございます。多言語表記・案内の充実を図りましょう、無料公衆無線LANの整備をどんどん進めましょう、外国語対応の人材をその地域で特に多く育成していきましょう、また、観光地のトイレの整備・美化なども進めていきましょう。また、このほか、民間の方ならではのさまざまな取組があると思いますので、こういった今後の施策、民間企業の力、そういったものを重点的にコース上に注入していくということが取り決められたところでございます。

今後、このコース策定を進め、オリンピック・パラリンピックに向けまして、この両専門部会といたしましては、官民連携した取組をどんどん進めていこうということで合意をしている

ところでございます。

以上で報告を終わります。

○**新倉副議長** ありがとうございます。

それでは、御質問、御意見、ございましたらお願いいたします。

○**早川委員** インバウンド促進協議会の早川と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

ターゲット国のニーズを捕まえて、そこに対する体験プログラムというのをつくっていくというのは非常によろしいかと思えます。最近私、本業のほうでホテルのほうをやっているんですけども、お客様からよく言われることが、非常にいいプログラムがあるんだけど、どう申し込んでいいかわからないという申し込みの仕方に関して非常に質問が多くて、あと、申し込みの営業時間が非常に短くて、結局夜問い合わせしたくてもわからないとか、ちょっと朝、遊びに行く前に問い合わせしようと思ってもわからないみたいなことが多いので、その辺の強化が必要になってくるのかなと思えます。

あと、もう一点が、やはり千葉県が夜のプログラムが非常に少ない。また、朝のプログラム、他県では結構朝の馬の体験とか、日本でもやっていますけれども、そういった、もう少し朝のプログラムとか夜のプログラム、どうしても昼に集中しておりますので、その辺を幅広く、例えばオリンピックの競技期間中、競技終了後にちょっと遊びに行ける場所があるとか、競技前に行ける場所があるというのが、これから千葉県の魅力を上げていくために必要になってくると思いますので、ぜひその辺のほうを強化していただければと思います。

○**新倉副議長** ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

○**渡辺委員** 魅力ある観光地づくりの受入体制の部会にかかわっている立場で、一言補足説明をしたいと思えます。城西国際大学観光学部の渡辺と申します。

1つ考えなければいけないことは、短期間にいろいろなお客様が海外からお見えになりますので、ロンドンオリンピックは比較的うまくいったんですけども、その後の落ち込みというのが当然あります。なぜそこが落ち込んでいくかという大きな要素としては、日本、そして千葉を訪れたのですが、ちょっと満足度が低かったという形で、ある意味ではイメージ的にその後の展開がマイナス要因に働いたということになり得る可能性が1つあると思えます。そういった意味で、外国人対応への育成という中で、宿泊・観光施設のスタッフの方のおもてなしというのがもちろんキーになりますけれども、そこに加えて、やはり観光ボランティア、語学ボランティアというスタッフが、かなりいろいろな海外旅行客の方々に接触していきますので、

ここの育成というのが非常に大事になってくるかと思えます。

そういった意味で、観光ボランティアと語学ボランティア、2つあるのはどういうことかなのかを私なりに理解しますと、やはり観光ボランティアというのは、ある程度観光案内ができるという形のボランティアだと思えますので、そういったことでいいますと、やはりかなり早い段階から外国語対応ができる観光ボランティアの育成はしていかないと難しいだろうというふうに理解をしております。

先ほど事前の協議等のお話の中にありましたように、中学生、高校生を中心とした体験ボランティアに参加していくということは教育的に非常にいいことだと思いますので、ここは特別な教育とかということよりも、やはり観光ボランティア、語学ボランティアに関しては、基礎的な教育をきちんとまでする必要がある。例えば、観光ボランティアに関しては観光ルートないいろいろなことを勉強する必要があるというふうに思っております。

先ほど早川委員のほうからお話がありましたように、ぱっとあいた時間にどこかへ行きたいという情報を提供できるかということは非常に鍵になると思えますので、そうした意味で、ぜひ東京会場のほうにブースというか、アンテナショップではありませんが、アンテナ観光案内みたいな形で設置していただいて、千葉のほうにちょっと半日でも、1日でも、1泊でも、という多様な案内ができる観光ボランティアなりというところをそこに配置していくという、これは随分先の話なんですけれども、そういったことを念頭に置きながらやっていく必要があるかと思えます。

もう一つは、部会で非常に議論になりましたことは、海外からのお客さんは、多分オリンピックやパラリンピックに関係している人は、ぱっとあいた時間をどうするかということになりますけれども、それ以外の方は、日本に行く前に、どこに行くかというのはかなり前にもう検討しているだろうということから考えますと、海外への発信というのは直前ではもう間に合わないので、2年、3年前から千葉の魅力を発信していく必要があるだろうということですから、そういった意味では、ネットワークを使った調査を始めたというのはいいことだと思っております。

最後になりますけれども、学生たちが観光ボランティアを行うという立場からしますと、そこでやはり満足したり成長だったり、先ほど加納先生のほうからお話があったように、学生の成長につながるということが非常に重要だと思います。どうしてもボランティアを活用するという立場になりますけれども、私どもの立場からしますと学生の教育の場でもある。そういったことが、留学生が絡んでいきますと、そこからまた世界に情報発信していくというふうにつ

ながっていきますので、ぜひ学生を育てていくという視点も取り入れた観光ボランティアだったり語学ボランティアというふうにしていただければ非常にありがたいと思います。

以上です。

○新倉副議長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

○吉開委員 意見というよりも、ちょっと質問なんですけれども、先日NHKのニュースでもやったんですけれども、東京は今、宿泊施設が少ない。非常に観光客への宿泊施設が少ないということで、例えば今、空き家になっているところをちょっと改築して、そこに観光客を入れることができないかという不動産屋がいたり、マンションの空き部屋に人を泊めるといったことができないかという取組も今やっているということをお伝えなんですけれども、千葉の場合も非常に観光客が多い。かつ、東京に観光に行くために、今は千葉に泊まらざるを得ない。東京が泊まれないものですから、そういう状況で千葉のホテルも満室という状況の中で、これから、例えばサーフィンとか、そういう新しい競技の可能性も出てきたという中で、宿泊施設が本当に足りるんだろうか、その辺の見込みはどうかということをお伺いしたいのと、例えば今お話があった外国人における体制という中に、そういう方を受入れる地域の方を育てていくといったようなお考えがあるのかといったことも、今後検討されると思うんですが、そういったこともぜひ知りたいなと思って、ちょっと発言をいたしました。よろしくお願ひいたします。

○新倉副議長 それに関しましては、事務局からお答えをお願ひいたします。

○田中観光企画課観光企画室長 今の御質問の1点目でございますけれども、いわゆる民泊というのが今議論されておまして、日本の中では今、旅館、ホテル組合の方もいらっしゃいますけれども、旅館業法という業法でさまざまな規制が設けられております。その中には、施設面での防火体制ですとか、また建物の構造、いろいろ規制を受けて、皆さんその中で旅館・ホテルを営業されております。その中で民泊というのは、実は現状では旅館業法のいわゆる違法の形態であろうというふうに言われておりますので、なかなか今それを推進するというのは難しいかと思われまます。

ただ、今、国家戦略特区の関係で、東京都の大田区さんが特例的に民泊を認めるような方向を模索していると聞いております。また、そちらがどのように今後進むかわかりませんが、そういったところも注視しながら、千葉県内でそういった特区をつくれるのかどうか、そういったものも検討していかなければいけないのではないかなというふうな課題認識をしておるところでございます。

また、その受入環境なんですけれども、我々県庁で考えている対策といたしましては、今、外国人観光客が成田、千葉、浦安あたりのこのラインに非常に多く泊まっているという現状がございます。ただ、そこのホテルの稼働率が非常に高くなっておりまして、だんだん外国人の方も徐々に南へ泊まったり東へ泊まったりというような傾向が出始めております。我々として、そういった傾向に対応できるように、今まで外国人を受け入れたことのないような宿の方にも、外国人対応をこのようにやってくださいということでマニュアルを配付したり、あるいは、災害発生時の情報伝達の仕方、指さしでできるようなものを配付したりと、そういうような取組を行って、なるべく客室不足等につきましては、まだ稼働率に余裕がある地域の宿で頑張ってもらって受け入れていただければ、そういった形でほかの地域の関係者の方の人材育成的なところも進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○新倉副議長 ありがとうございます。

○上田委員 千葉テレビの上田でございますが、弊社の番組の中でもオリンピック関連では、オリンピックを目指す選手については月1本やっておりますし、先月はたしかパラリンピックを目指している方を取り扱った、30分の番組ですけれどもやらせていただいております。

先程の説明にオリジナルコース、そして周遊コースをつくるということでおっしゃっていましたが、この計画があるのは非常に結構なことです。我々も、会社のプロジェクトの中でどんなものができるかということで、観光案内という番組とか、そういうものもあるんじゃないかということで検討し捉えておるんですが、いざどこを撮るか、いざどういふところのソフトをつくっていくかというのが非常にこれから検討していかなければならぬところだと思っております。

そんな中で、非常にこれは我々にとって参考になるのですけれども、このスケジュール、タイミングで今年度から調査を開始したとのことですが、いつごろそれができ上がっていくんだろうか。先ほどあったとおりで、オリンピックの直前ではどうしようもないわけですから、毎年改定していくつもりでもいいですから、来年度のいつごろには一つの今年度版をつくるというようなつもりでやっていただくと、我々もそれに対応したものがつくっていけるなというふうに思っているところでございます。

○田中観光企画課観光企画室長 千葉県オリジナルコースをつくってどう発信していくのかというあたりのスケジュール感をちょっと説明をさせていただきたいと思っております。

まずは、本年度中には外国人の各国の方々の嗜好などを調査し、来年度当初、専門部会にお

いて委員の中で、では、こういったところを重点地域にしましょう、重点のコースにしましょうということを決めたいと考えております。来年度中には、そのコースをもとにしたPVであるとか冊子であるとかパンフレット類のようなものをどんどん作りまして、28年度の後半には第1弾目の重点コースを対外的に発信していけるというようなスケジュールを考えております。

また、そのほかのコースも徐々に、また同時並行的に検討を進めていく中で、これがお勧めだということが決まりましたらば、その都度また冊子等をつくって情報発信できればと考えているところでございます。

一応、先ほどの戦略5、戦略6の専門部会の今後のスケジュールについては、そのようなスケジュール感を持っております。

以上です。

○新倉副議長 ありがとうございます。

今、早川委員、渡辺委員、吉開委員、上田委員から貴重な御意見と御質問いただきました。この次の議題になりますが、県の取組検討調査について報告していただきますので、これまでの議論に加え、具体的に足りない部分等ございましたら御意見いただければと思います。これから現状を分析していくというところに入ってきたように思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、今いただいた御意見等に関しては、専門部会も事務局も含めて検討したいと思っております。次の課題に行きたいと思っております。

3番目の2020年に向けた県の取組状況ということで、その1番目、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けた取組検討調査について、事務局からお願いをいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 それでは、2020年に向けた県の取組状況のうち、まず競技大会の成功に向けた取組検討調査について、資料3-1で御説明をさせていただきます。

この事業は、昨日閉会いたしました9月定例県議会において予算措置されたものでございます。

1の事業目的に記載されておりますとおり、幕張メッセでの競技開催を踏まえまして、大会の成功に向けて機運の醸成や会場周辺の活性化等について今後の取組を推進するため、調査検討を行うものでございます。

調査の内容につきましては、2の業務委託の概要にございますとおり、大きく分けて4つございます。

まず1つ目が文化プログラム実施のための事前調査。こちらにつきましては、オリンピック・パラリンピックがスポーツの祭典と同時に文化の祭典としても位置づけられていることから、千葉県の文化・芸術を世界にPRする絶好のチャンスとしてどのようなものを発信していくのか、そういったことを検討するものでございます。

次に、(2)のボランティアの組織化及び管理に関する調査。本日も御議論いただいているところでございますが、ボランティアの中で会場の関連自治体、私ども千葉県、あるいは市町村が主体となって組織する都市ボランティア、空港、主要駅、観光地等で交通観光案内等に従事する都市ボランティアにつきまして、県全体でどのように育成・確保していくのか、またそれをどのように束ねていくのかということ进行调查するものでございます。

そして3つ目が、大会会場周辺の活性化に関する検討といたしまして、周辺地域でのイベント等など、あるいは、幕張の国際ブランドイメージ、オリンピック・パラリンピック競技会場としてのブランドイメージをどのように作り出していくのかという、そういう手法検討を行います。

最後に4つ目といたしまして、県内への経済波及効果の把握、それから、今までの(1)から(3)の調査を踏まえました会場周辺の完成予想図を作成するという調査を行うものでございます。これらの調査結果につきましては、推進会議や専門部会で共有し、今後の取組に反映させてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

取組の検討調査に関して項目が挙がっておりますけれども、委員の方々から何か御意見、御発言ございましたらお願いをいたします。

1つ目が文化プログラムの実施のための事前調査ということで、インバウンドの効果とか、どうやって外国の人たちに日本ではなくて千葉に来てもらえるかという話ですけども、何か御発言がございますでしょうか。

○早川委員 いろいろな千葉の魅力というのものも、恐らく国によって大分求めるものが違ってきているのかなという感じはします。その中で、今、国別のとりあえずアンケートをとられて、その中から目的のものを発信していくというのは非常に大事だと思います。

もう一つすごく大事なことが、その国がこれが欲しいというものに余り合わせ過ぎない、や

はりオリジナリティーをきちんと出していくというもので、本当に千葉県の前からあるものを発信することによって、向こうの国の方が来てもらうようなつくり込みをしていかないと、えせでつくと非常にそのときだけで終わってしまいますので、その辺の本物の発信。あと、まさに受入の仕方をきちんと考えるということが大事だと思っております。

○新倉副議長 ありがとうございます。

そういう意味では、ボランティアに限らず受入側の対応、システムをどうやってつくり上げていくかということもやはり大きな課題にはなっているかと思いますが、それに関しての実態調査も行うようでございますが、もちろんこれに限らず、何か委員の方々のほうで御意見等ございましたらお願いいたします。

○上田委員 御質問、よろしいですか。企画提案のプロポーザルのところで、おとといに選定委員があつてプレゼンテーション・ヒアリングがあつたと。どの程度の団体が応募されているのか、それで県内なのか県外なのか。何も千葉企業にこだわる必要性も、リージョナリズムを出せ、地域イズムを出せという話でもないと思いますが、大体どんな感じの応募があるのかをお教えいただければと思います。

○新倉副議長 事務局でお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 今回の成功に向けた検討調査につきましては、企画提案を4社からいただきました。本社的には県内だけではございませんが、県内に詳しい企業からの提案をいただいたというふうに考えております。

○飯沼委員 全体的によろしいと思ひますし、オリンピック・パラリンピックに向けて若い人たちに夢を与えるということは一番大事だと思ひますけれども、現実を見ても、非常にこれから、今、団塊の世代が66、67、68ぐらいですが、この方たちが高齢化してきますので超高齢化社会になるわけでございます。それを見据えるというか、そういうことも考えて、やっぱりパラリンピックというのは、非常に千葉県において私は重要なことだと思ひますね。私の母も80を過ぎてから脳梗塞で、ちょっと右半身が不自由になりましたけれども、やはり一番喜ぶのは、例えばどこかちょっと連れて行ってあげることなんですね。温泉はあれですけども、景色のいいところとか、体が不自由でずっとうちにいなくちゃならないので、そうすると非常に喜ぶわけなんです。

ですから、こういう機会に、例えば今、千葉県はトイレに対して補助をしておりますけれども、例えば車椅子対応にした場合はもっと補助額を上げるとか、それから段差を解消するとか、そういうことを、この経費だけじゃなくて、ほかの経費も上手に使っていただいて、千葉県全

体をそういうことに対応できるようにしたらいいんじゃないかなと、お金が非常に前向きと言うと変ですけども、上手に使えるんじゃないかなというふうに思いますので、一言申し上げたいと思います。

○新倉副議長 ありがとうございます。

ほかに何か御意見ございますか。お願いいたします。

○岩田委員（代理） 業務委託の概要の③のところに留学生を対象としたモニター調査の実施ということがございまして、いろいろイベントを通じて留学生のいろいろな考え方を聞くというのが目的だと思いますけれども、県内、これだけ大学があつて、非常に留学生もたくさん各国から来ていらっしゃると思ひまして、留学生の中には、非常に日本に来た中で母国との橋渡しをしたいという熱意を持っている学生もたくさんいると思ひます。ですから、こういうチャンスを生かして、留学生の皆さんにそういった活躍の場を提供するというのは非常に大事だと思うんですけども、あわせて、やっぱり留学生がいろいろボランティア、あるいは語学の担当をなさることによって本音を聞けるという面があるかと思うんですよね。

ただ、留学生の方の多くは結構苦学生が多くて、やはりアルバイトとか、そういった生活に追われる方が多いので、どういった条件があれば、いろいろな面でこういったイベントなり、これからのキャンプ地の手助けができるかどうかという、そういった条件をよく聞いてやっていただきたいなという、こういう条件さえクリアできれば私たちは積極的に応援しますよというようなところをちょっと調査していただければありがたいかなというふうに思ひます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

先ほどの飯沼委員のお話、それから、今のお話、事務局でバリアフリー化のことに何にかコメントをつけ加えることはございますでしょうか。よろしいですか。

留学生に関しましても、今のお話、ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

取組検討調査が始まって結果が出てきますと、課題がもっとクリアに見えてくるかなと。そうすると、オリンピック・パラリンピック競技実施のみならず、それを遺産としてどういうふうに残していくのか、何が重要なのか、何を残すべきなのかというものも含めて検討ができるのかなと思ひます。

ほかによろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、今、いただいた貴重な御意見、今後の取組に生かしていきたいと思ひます。

それでは、続いて、県内開催3競技の普及についてということで、事務局からお願いをいたします。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長** 県内開催3競技の普及につきまして、資料3-2で御説明をさせていただきたいと思います。

この資料、先ほど9月定例県議会により予算措置されましたオリンピック・パラリンピック競技の普及振興事業の概要となります。

事業目的は、1に掲げましたとおり、県内で開催される大会の成功に向けて、3競技に対する県民の理解の促進や機運の醸成を図るため、県内の競技団体の協力のもと、体験会やスポーツ教室を実施するものでございます。

事業の概要につきましては、2の(1)にございますように、フェンシングとテコンドーにつきましては、大型集客施設における体験会を実施いたします。イベントでは、オリンピックによる講演やトップ選手によるデモンストレーションにより、多くの県民の方に本県で開催される競技について知っていただくとともに、子供たちを対象にオリンピックによる体験指導を実施し、競技に対する関心を高めていきたいと考えております。

また、レスリングにつきましては、フェンシング、テコンドーに比べ競技人口も多いことから、(2)に書いてございますように、体育館等においてトップアスリートによる公開スポーツ教室を実施し、競技の裾野の拡大を図りたいと考えております。

これらの取組によって、本県で開催される競技に対する理解を深め、県全体で大会を盛り上げていくことができますよう機運を醸成するとともに、あと、教育庁のほうで実施しております競技力向上やスポーツの普及にもつなげていければと考えております。

事業に対する説明は以上でございます。

**○新倉副議長** ありがとうございます。

今の事務局からの報告に関しまして、何か御意見ございますでしょうか。

今年度の予算の中で、今、御提案いただいた競技について実施をしていくということですが、お願いいたします。

**○後藤委員** ちょっとここに記載されていないのか、あるいはそういうことも含んでいらっしゃるのかもしれませんが、これらの競技の日本選手権の誘致という、大体多くのきちんとした団体は、数年後の日本選手権の場所も決めているところが多いんですけれども、まだ間に合うところがあれば日本選手権の誘致をなさったらいかがか。それで、それを子供たちに見せるとか、あるいはパラリンピックですと、パラリンピック競技の日本選手権というのは非常

に先がまだ決まっていないところが結構な競技団体であると思いますので、そういう大会の誘致というので、それを通して実際の試合を見てもらって理解をしていただくという方法をお考えになったらいかがかなと思います。

○新倉副議長 事務局のほう、今の御意見についていかがでしょうか。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 少し検討をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○新倉副議長 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今の御意見に関しても検討させていただくということで、委員の方々には引き続きよろしくお願いをいたします。

それでは、今後のスケジュールについてということで、議題の4に入っていきたいと思えます。

事務局から御説明をお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 それでは、今後のスケジュールにつきまして、資料4で御説明をさせていただきます。

この資料では、本日の第5回推進会議以降、来年度末までの主な予定を記載しております。今後は、ページ右側のオリンピック関連の動向に記載してございますIOC、IPC、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会や、国、組織委員会等の動向も踏まえながら、取組の推進検討を行ってまいります。

次回の推進会議につきましては、来年度の5月、6月ごろを目途に開催いたしまして、今年度の取組の総括を行えればと考えております。また、来年度は年2回程度の開催を予定しておりますが、具体的な開催時期につきましては後日調整をさせていただきますので、またよろしくお願いをいたします。

なお、専門部会につきましては、それぞれの取組の進捗を踏まえながら随時開催することといたしまして、本日の議論の中で課題として御指摘いただいた事項を検討させていただきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

今後のスケジュールに関しまして、委員の方々から何か御質問、御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それ以外に、もし何か言い忘れましておっしゃる方がいらっしゃいましたらどうぞ。

○前田委員 3競技以外のサーフィン、オリンピック競技に追加されるようではすけれども、この会議で誘致ということではないと思うんですが、ぜひこれは湘南海岸ではなくて、大きな波が来る外房、千葉ということを県民から声上がるような何か仕掛けができないのかなということで、ぜひもう1競技を千葉に持ってこられるように、県民の声が上がるような仕掛けの検討もぜひお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○新倉副議長 ありがとうございます。まだ開催地が決まっていないパラリンピックの競技もありますし、それからサーフィン等もありますので、今の御意見は事務局含めて検討していきたいですが、検討はまだ難しいところもあるのではないかと思います。よろしいでしょうか。

長時間ありがとうございました。これで議事を終了したいと思います。司会進行、至らない点が多くて、少し時間が過ぎてしまいましたけれども、御協力いただきましてありがとうございました。これで進行を事務局にお返しいたしますので、よろしくお願いいたします。

○司会 新倉副議長、ありがとうございました。

本日の議事内容につきましては、議事録を作成し、千葉県ホームページ上で公表いたします。公表する内容につきましては、後日確認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、非常に限られた時間でございましたので、さらに今後、お気づきの点などがございましたら事務局まで御連絡いただければ幸いに存じます。

#### (4) 閉会

○司会 それでは、これをもちまして会議を終了いたします。

委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。